

アニュアルレポート 2020

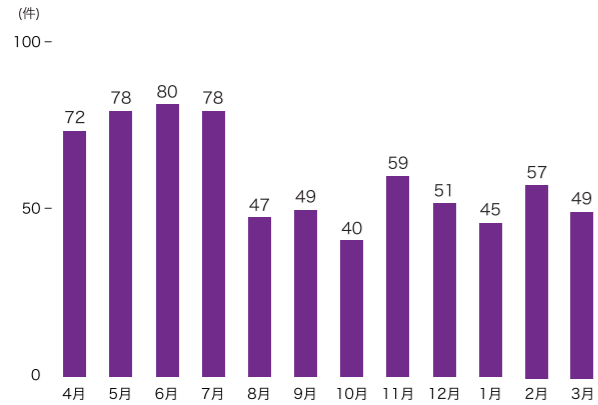
ANNUAL REPORT 2020

2020年度 支援活動報告(データ編)

2020年度のデータ検証の前提

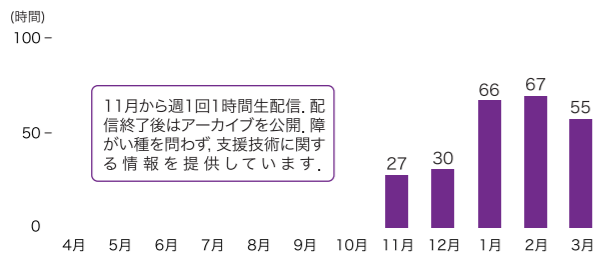
新型コロナウイルス感染症対策のため、病院や学校では訪問制限がかかりました。当センターが所在する新潟大学でも来訪制限が敷かれました。また、病院や学校の研修も何件か延期や中止になりました。一方で、コロナ禍ならではの個別支援の依頼もありました。

月別支援件数の推移



年間の支援件数は705件(月平均:58件)で前年度に比べ減少しました。しかし、4-7月は前年度に比べて件数が増えています。

月別視聴時間の推移



研修の延期、中止を補うため、YouTubeで動画配信による情報発信を開始しました。11月の配信開始から視聴時間が伸びています。

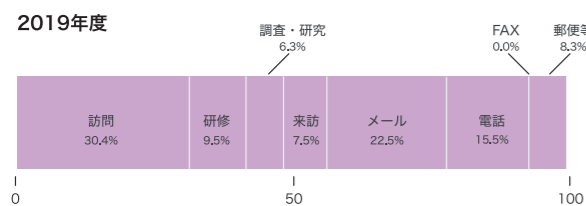
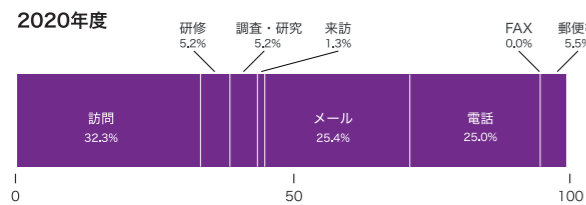
相談方法別の割合

大学の来訪制限に従い来訪者数が大きく減少しました。その代わりに感染症対策をした上での訪問を行ったので、訪問件数は例年通りでした。Zoom等を使った遠隔支援は「電話」に計上してあります。研修は減少していますが、上述したようにYouTube配信の視聴が伸びており、ウィズ・コロナにおける階層型支援モデルの構築が進んでいます。

相談方法別 集計

	訪問	研修	調査	来訪	メール	電話	FAX	郵便等
2020年度	228	37	37	9	179	176	0	39
2019年度	208	65	43	51	154	106	0	57

(単位:件)



障がい種別の割合

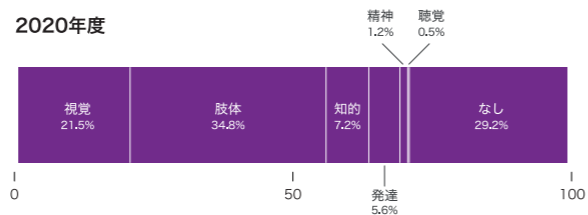
【視覚障がい】大学病院外来の休診、対面での公開講座の中止が影響し減少しています。【肢体不自由】感染症対策をした上での訪問依頼がほぼ例年通りにありました。【聴覚障がい】支援機関への仲介などを実施しています。【知的・発達障がい】特別支援学校や通級指導教室への訪問を遠隔で行うなど対策をして対応しました。【なし】2021年度からはじまるGIGAスクール構想に関連した支援機器に関する相談が増加しました。新潟県教育委員会の依頼による県立特別支援学校向けの研修や新潟市教育委員会の依頼による特別支援教育向けアプリの選定なども含まれます。

障がい種別 集計

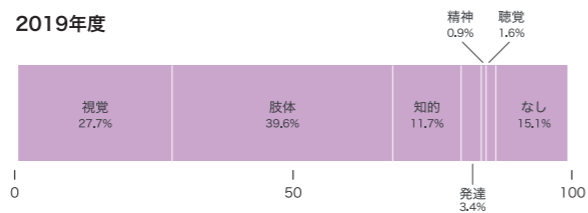
	視覚	肢体	知的	発達	精神	聴覚	なし
2020年度	176	285	59	46	10	4	239
2019年度	209	299	88	26	7	12	114

(単位:件)

2020年度



2019年度



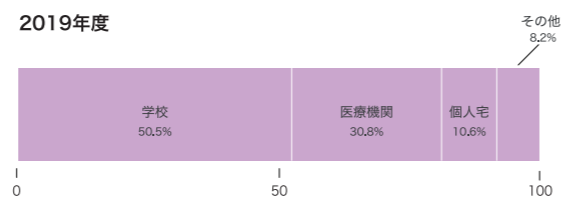
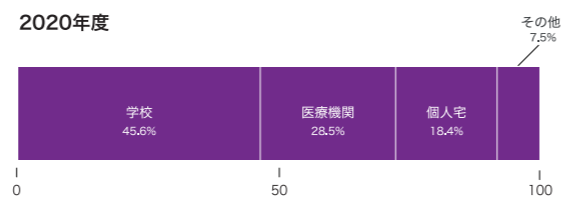
訪問先の内訳

新型コロナウイルス感染症対策のため、学校や病院への訪問が中止になることがあった一方、個人宅への訪問は増加しました。【学校】GIGAスクールに関連した機器整備の訪問が増加しました。新潟県教育委員会からの依頼による訪問も初めて実施しました。【医療機関】大学病院眼科への定期訪問やリハビリテーションでの機器提案、意思伝達装置に関するデモを実施しました。【個人宅】中止になった視覚障がい者向けPC教室の代替としての訪問指導や意思伝達装置の導入支援、環境制御装置のチューニングなどを行いました。

訪問先 集計

	学校	医療機関	個人宅	その他
2020年度	104	65	42	17
2019年度	105	64	22	17

(単位:件)



コロナ禍と個別支援、 新しいニーズと新しい対応、 変わらないニーズと変わらない対応。

2021年度の個別支援はコロナウィルス感染症対策の影響を大きく受けました。訪問予定がキャンセルや延期になることもあり、訪問による接触を避けるため、ケース会議などはZoomなどのシステムを使ったオンライン会議で実施することも増えました。医療関係では重度障害者用意思伝達装置の導入に関する相談や眼科外来での情報提供などを実施しました。コミュニケーション支援講座の受講後、当センターを利用する流れは定着しています。眼科外来が年度当初休診になったため、振り替えて来院する方への対応

が年度後半に集中しました。学校関係ではGIGAスクールに関連した依頼が増えました。障がい特性に合わせた端末の調整、必要な周辺機器に関する情報提供、タブレット活用に関する先事例の紹介などを行いました。また、機器整備を行なっている教育委員会へのアドバイスも実施しています。医療機関や学校を介さず直接寄せられるケースでは、中止になった視覚障がい者向けPC教室の代わりに個人宅に出向いて個別講習を行ったり、肢体不自由の方の自宅で環境制御装置のチューニングを行いました。



- 本人、医療機関、学校等に訪問先の意向に合わせた感染症対策
- 「ウィズコロナ」における個別支援に関する研究

コロナと障がい者支援

2020年5月にWHOが「Disability considerations during the COVID-19 outbreak」という文書で指摘している通り、障がいのある人々はアウトブレイク下で不利な状況に置かれやすく、労働、教育、生活一般について、特段の配慮が必要となります。訪問を主体とする個別支援には慎重な対応が必要ですが、その重要性は一層高まっているといえます。

2021 活動方針

2021 活動方針

研修事業を補完するYouTube配信、 11月～2月の総再生時間は190時間。 対面研修を補う新たな階層支援の形です。

階層型支援の中心に位置付けていた研修事業も感染拡大防止の観点から、大きく制限されました。今年度はその代替としてオンライン会議システムを利用した非対面型の研修を実施しました。非対面型の研修では機器の試用体験はできませんが、スマホやタブレットで気軽に受講できる、オンデマンド型では時間に縛られない、などの利点があります。これまで仕事や家庭の事情で研修会場に足を

運びづらかった方々からは好評です。また、11月からはセンター内に小さな配信スタジオを作りYouTubeを使って支援技術の情報を発信する「ATティービー」を開始しました。11月から2月までの4ヶ月間で、総再生時間は190時間以上にのびます。オンライン研修の品質を上げるための工夫や、オリジナル動画コンテンツの制作などが今後の課題です。



医療機関向け

今年度、医療機関向けの研修はすべてオンラインでの実施でした。難病ITコミュニケーション支援講座はYouTubeを利用したオンデマンド配信とZoomを使ったリアルタイム配信を組み合わせ実施し、作業療法士会、言語聴覚士会と共催している研修はZoomを使ったリアルタイム配信で行いました。会場までの移動時間が節約できる点、家事の合間に受講できる点など、オンラインの特徴が評価されました。



教育機関向け

教育機関向けでも研究会などの対面型研修が難しくなりました。医療機関向け同様、Zoomなどを使い対応しています。2021年度から本格的にGIGAスクールが始まります。具体的な設定方法や機器、活用事例を紹介する研修を今年度から実施しています。新潟市では全ての児童・生徒にiPadが提供されます。今後はiPadを中心とした研修依頼が見込まれます。オンライン研修と対面研修、両方をバランスよく実施して行く方向で次年度の活動につながっていきます。

- ニーズに応えるための遠隔研修技術の確立
- オリジナルプログラムの制作